

緒方保育園の将来の姿、方向性は

～機能は存続。建物は直営～



えとう たつ や
衛 藤 竜 哉

市民クラブ

質

公立の保育園が市内に1園だけ残っている。合併して公立から民間へ4園が譲渡され、それぞれ子どもや保護者、周辺地域等の関わりを大事に、園舎等施設の建て替えも順々にできているようである。

緒方保育園の園舎は老朽化が激しく、また、保育士の確保も難しい現状であるが、施設の移転修繕計画と保育士の採用について、市の考えは。



緒方保育園

答

社会福祉課長

緒方保育園は平成23年度に公立として存続することを決定し、平成27年度には国の新制度により幼保連携型認定こども園へ移行しました。

平成27年4月に改訂した公共施設の見直しに関する指針の機能は

存続、建物は直営とする方針に基づき対応しています。

保育士は当分の間、正規職員は現教維持を基本とし、職員が不足する場合は嘱託職員を確保することで適切な保育業務を行いたいと考えています。

施設の移転等は、未定です。

旧緒方工業高校体育館の再利用の構想は

～県有地跡地利用検討委員会で今後の方向性を検討～

質

旧緒方工業高校跡地は広大で利用価値の高い土地である。一部、豊西准看護学院の移転工事が始まっているが、再利用される体育館が手付かずで、どのように考えているのか構想を伺う。

答

市長

平成30年度は校舎の解体工事を予定しているため、工事完了まで体育館の利用が困難となります。

その他の建物や再利用ゾーン以外のエリアは、庁内に設置の県有地跡地利用検討委員会を中心に検討しており、方向性が決まり次第、皆さまにご説明します。

厚生文教常任委員会

平成29年11月8日～10日
山形県天童市・宮城県東松島市

天 童市では、子ども・子育て支援の取り組みとして、子育て未来館げんキッズを視察しました。

施設は天候に左右されない室内型の交流施設で、地域子育て支援拠点施設として、一時預かり事業やファミリー・サポート・センター事業等も行っていきます。

施設の特徴として、子育てサークルの育成やグループ化を図っています。また近隣市町と連携し相互利用を促進しており、市外の方も一時預かりや講座の受講などが利用可能です。地域に密着した活動として、講座やイベントを通じた仲間づくりや交流事業等の事業展開をしています。



施設内の様子（天童市）

東

松島市では、避難所におけるこのころのケアの対応や取り組みを視察しました。東日本大震災発災直後の対応では、保健師11名、栄養士2名が災害対策本部の指揮下で被災者支援を行っていました。

初期巡回では、精神保健、自殺対策、不眠・うつ・急性ストレス障害への対応や衣食住の確保等にもかわり、救護活動の中で巡回診療を行い、健康面や精神面のケアに取り組んだとのこと。このころのケア事業では、被災者の気持ちとニーズを常に重視し、ニーズの変化に合わせた支援、ストレス対処への啓発や予防活動、相談窓口、子どものこころのケアアンケート調査や講演会、研修会を実施しています。

議会運営委員会

平成29年11月15日～17日
茨城県牛久市・鹿嶋市

牛

久市では、ICT化の検討をされており、タブレットのデモ体験などを実施し、導入に向けて活発な活動をしています。

平成29年8月には執行部に対しデモ体験を実施したようです。

また、牛久市議会災害対策会議設置要綱を制定し、議場にヘルメットを配置しています。これは東日本大震災発生時に予算特別委員会が開催されており、その経験から作成したとのこと。



牛久市

鹿

嶋市議会では、予算決算委員会を常任委員会としています。これまで議案質疑をしてきた方が、常任委員会で質疑を行うようになったため、本会議で質疑を行うことが少なくなってきたとのこと。

ICT化は、議会改革推進特別委員会情報部会で検討したそうですが、導入には至らず、予算要望もしたが、執行部からは初期のインフラ整備に費用がかかるという回答があったようです。

両市議会ともICT化には前向きに取り組んでいることが分かりました。ICT化は将来に向けて避けて通れない道と考えており、議会の課題として今後議論を重ね、関係課とともに検討していきたいと思えます。

議会広報編集特別委員会

平成29年11月20日～22日
山形県庄内町・新潟県聖籠町

庄

内町議会では、広報常任委員会として、議会広報紙の編集を行っており、委員の任期は4年です。読みやすく、分かりやすく、親しまれる議会広報を目指し編集しておられます。

また、小学校5年生でも読めて、理解できるように心がけておられるそうです。

見出しも重視しており、興味を引く表現で、かつ見出しを見ることが文章内容が推察できるように工夫しているとのことでした。各ページは字が多くなりすぎないように、適度に余白を取り、見やすいレイアウトにされています。



度には余白を取り、見やすいレイアウトにされています。

聖

籠町議会では、広報広聴常任委員会で編集しています。編集時には、文章は短く、議会での雰囲気や言葉を表現すること、見出しは読みやすさに配慮し、なるべく多く設けるなど心掛けているとのことでした。

掲載記事では、「聖籠町に嫁いで来たお嫁さん」、「読者の声」など、町民参加のコーナーを設けているほか、「追跡レポート」や、「お聞きしました！まちのこと」など多様な企画記事を掲載し、読んでもらえる広報紙づくりを目指していました。



聖籠町